



かけはし



文責：小倉



「つ」がとれるということ・・・

～授業参観お世話になりました～



今年度、最後の授業参観、学級懇談会はお世話になりました。どの学級も、この一年間の学びの集大成を、ご家族の方に見ていただくのを楽しみに頑張っていたようです。その中で4年生は、「つなし式」を実施し、私も参加させていただきました。

「つなし式」は、あまり聞き慣れない言葉ですが、どんな式なのでしょう。「ひとつ、ふたつ、みつつ、・・・」と年齢を数える時、「ここのつ」までは「つ」がつきますが、「とお」からは「つ」が消えます。10歳は子どもの発達段階からするとちょうど区切りの年齢にあたります。面白い一致です。この年齢から、家族といふ時間が減り、友達と一緒にいる時間が増えてくると言われています。自分のことも客観的にとらえられるようになってきます。社会性が育つ時期になるので、保護者の「手」から少し離れ、活動範囲を広げていきます。

時には、自己に対する肯定的な意識を持てず、自尊感情が低下しやすくなる時期もあります。時には反抗したり一人苦しんだりしているかもしれない時期です。しかし、本人の成長のためには、避けては通れない道かもしれません。

このような時、周囲の大人はどうようなスタンスで子供たちと向き合えばよいのでしょうか？
必要以上の「手」出しを少し我慢して、でも十分に「目」をかけてあげたいところです。「本当に困ったときはいつでも助けるよ」というスタンスでしょうか。

また、この節目は必ずしも10歳とは限りません。成長には個人差があります。小学校を卒業してずいぶん経ってから「つ」が消える子もいるでしょう。一人ひとりの成長に合わせた「つ」をみつけたいものです。

最後に、子供の成長と私たち大人の接し方について、「なるほど」と感じ入った言葉がありますので紹介します。アメリカンインディアンの子育て訓です。

【子育て四訓】

乳児の時は、	肌身離さず
幼児の時は、	肌を離して 手を離さず
少年の時は、	手を離して 目を離さず
青年の時は、	目を離して 心は離さず



大縄跳び大会 大いに盛り上がる！

体育委員会では、生活の中に身体を動かす機会を作ることと、クラスのつながりを強くすることを目的に、学級対抗の「大縄跳び大会」を企画してくれました。

各学級とも、体育の時間はもちろん、昼休み時間等も使って、練習に取り組んでいました。最初はなかなか続かなかった連続跳びですが、全員で数を数えながら、互いにタイミングの取り方を



アドバイスし合ったり、跳ぶフォームを工夫したりと、記録に向けて学級一丸となって取り組む姿が見られました。縄跳びが苦手な子たちも、仲間の励ましとアドバイス、そして跳べたときのみんなの笑顔で、みるみる上達していました。

結果としての記録も素晴らしいものでしたが、それ以上に、仲間と声を掛け合いながら協力して記録に立ち向かう姿は、何ものにも代えられない価値のある経験となったように思いました。

